

試験施工の実施状況（施工に際して特に目立った点）

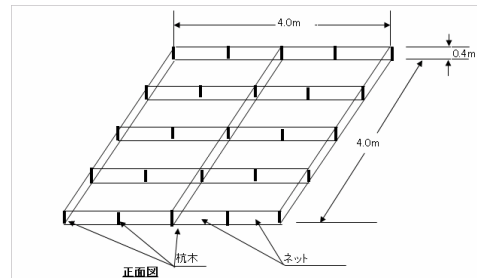
1 リター捕捉ネット工

（利点）

- ・施工が容易である。

（欠点）

- ・ネットと杭木、ネットとネットの固定に使用するマニラロープが解れて施工しづらいため、針金等に改める必要がある。
- ・ネットは、ヤシ繊維ネットの規格に合わせて1.0mの二つ折りとしなければならない。



単価：9万

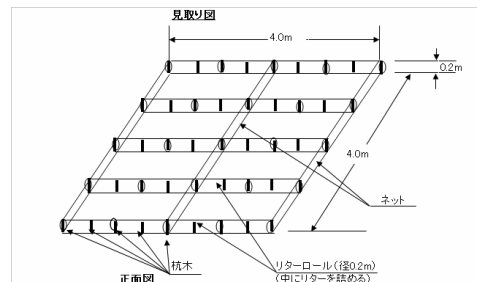
2 リター捕捉ロール工（タイプA・リター中詰め）

（利点）

- ・施工が容易である。

（欠点）

- ・ネットは、ヤシ繊維ネットの規格に合わせて1.0mをロール状に巻いたものを使用しなければならずロス率が高い。



単価：15万

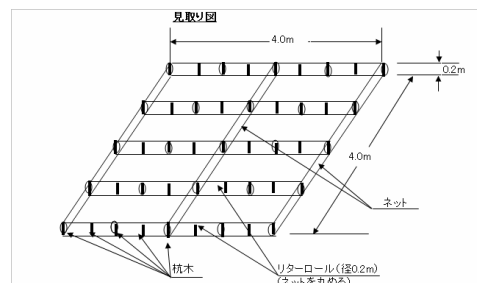
3 リター捕捉ロール工（タイプB・ネットのみ）

（利点）

- ・施工が容易である。

（欠点）

- ・杭木とネットの固定にあたり、タイプAに比べてロール状に巻いたネットが歪み易く、見栄えが悪い。



単価：11万

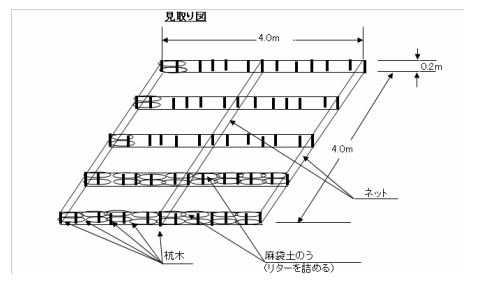
4 リター捕捉土のう積工（麻袋土のう）

（利点）

- ・目立った点無し

（欠点）

- ・リターを詰めた土のう形状が定まらぬため、見栄えが悪く施工も困難である。



単価：16万

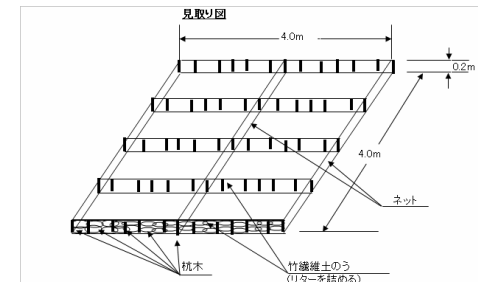
5 リター捕捉土のう積工（竹繊維土のう）

（利点）

- ・目立った点無し

（欠点）

- ・リターを詰めた土のう形状が定まらぬため、見栄えが悪く施工も困難である。
- ・土のうが華奢である上に口を縛ることが出来ないため、変形し易い。芝目串による固定も不可である。



単価：25万

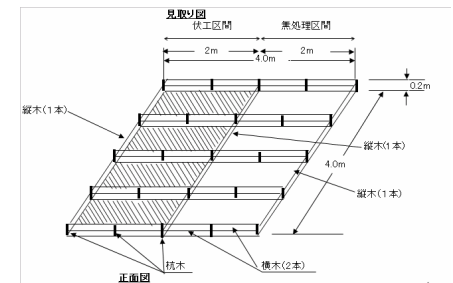
6 木製筋工（竹繊維ネット）

（利点）

- ・横木の現地加工が必要であるが、施工は容易である。

（欠点）

- ・縦木と横木の固定にあたり、鉄線による結束が困難であり、かすがい止めにする等の改善を要する。



単価：10万

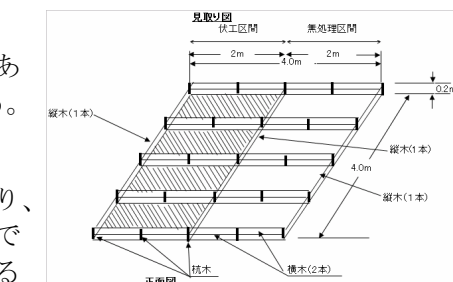
7 木製筋工（ヤシ繊維ネット）

（利点）

- ・横木の現地加工が必要であるが、施工は容易である。

（欠点）

- ・縦木と横木の固定にあたり、鉄線による結束が困難であり、かすがい止めにする等の改善を要する。
- ・急斜面におけるネットの固定に細心の注意を要する。



単価：10万

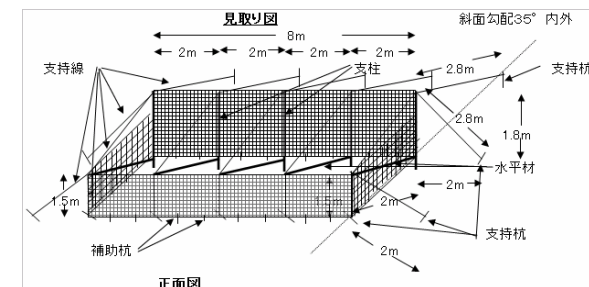
8 急斜面用植生保護柵工（タイプA・特注品）

（利点）

- ・目立った点無し

（欠点）

- ・頑強な構造であるが故に材料が重く、運搬、施工とも困難である。
- ・金網に重ねしろがないため、斜面では延長が極端に短くなる。
- ・金網下部が空く構造であるため、改善を要する。



単価：38万

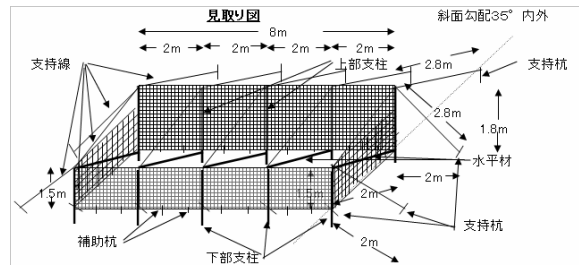
9 急斜面用植生保護柵工（タイプB・特注品）

（利点）

- ・目立った点無し

（欠点）

- ・タイプBと同様、過剰に頑強な構造であるが故に材料が重く、運搬、施工とも困難である。
- ・金網に重ねしろがないため、斜面では延長が極端に短くなる。
- ・金網下部が空く構造であるため、改善を要する。



単価：44万

10 急斜面用植生保護柵工（タイプC・D イノシシ柵）

（利点）

- ・資材が軽量である上に、杭と支柱本体が独立しているなど画期的な構造であるため、施工性が抜群に良い。
- ・金網下部に取り付けるスカート部はシカやイノシシの侵入防止に効果を発揮すると共に、リターのポケットとしての役割も果たすため、土壌浸食抑止効果は絶大と思われる。

（欠点）

- ・金網が1650×2100と大きいため、運搬がやや困難である。
- ・支柱と金網を固定するインシュロックの数量及び規格が設計と実際の施工とで異なった。 単価：10万



11 急斜面用植生保護柵工（タイプE・従来品(C型ポスト)）

（利点）

- ・これまでに広く使用されてきたタイプである。

（欠点）

- ・タイプC・Dに比べて使用部品数が多く、施工性も悪い。
- ・斜面での施工に際しては、支持線または筋交いが不可欠である。



単価：7万

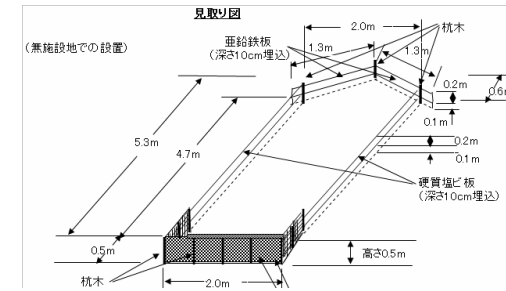
12 土砂浸食量測定柵工（無施設地比較用）

（利点）

- ・

（欠点）

- ・ひし形金網の加工が困難である上に、ロス率が高い。
- ・亜鉛鉄板、硬質塩ビ板の数量が設計と実際の施工とで異なった。



単価：4万

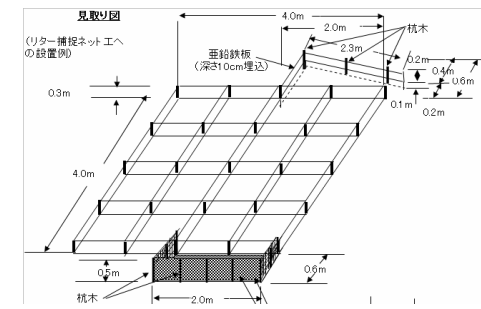
13 土砂浸食量測定柵工（モニター用）

（利点）

- ・

（欠点）

- ・ひし形金網の加工が困難である上に、ロス率が高い。



単価：2万